

2022年 4月 10日(日) 関東学院教会 主日礼拝 説教要約

説教「十字架につけられたイエス」 ヨハネによる福音書 19章16-30節 高橋彰

◆十字架につけられる

19 16 こうして、彼らはイエスを引き取った。17 イエスは、自ら十字架を背負い、いわゆる「されこうべの場所」、すなわちヘブライ語でゴルゴタという所へ向かわれた。18 そこで、彼らはイエスを十字架につけた。また、イエスと一緒にほかの二人をも、イエスを真ん中にして両側に、十字架につけた。19 ピラトは罪状書きを書いて、十字架の上に掛けた。それには、「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」と書いてあった。20 イエスが十字架につけられた場所は都に近かったので、多くのユダヤ人がその罪状書きを読んだ。それは、ヘブライ語、ラテン語、ギリシア語で書かれていた。21 ユダヤ人の祭司長たちがピラトに、『ユダヤ人の王』と書かず、『この男は「ユダヤ人の王」と自称した』と書いてください』と言った。22 しかし、ピラトは、「わたしが書いたものは、書いたままにしておけ」と答えた。

23 兵士たちは、イエスを十字架につけてから、その服を取り、四つに分け、各自に一つずつ渡るようにした。下着も取ってみたが、それには縫い目がなく、上から下まで一枚織りであった。24 そこで、「これは裂かないで、だれのものになるか、くじ引きで決めよう」と話し合った。それは、

「彼らはわたしの服を分け合い、わたしの衣服のことでくじを引いた」という聖書の言葉が実現するためであった。兵士たちはこのとおりにしたのである。25 イエスの十字架のそばには、その母と母の姉妹、クロパの妻マリアとマグダラのマリアとが立っていた。26 イエスは、母とそのそばにいる愛する弟子とを見て、母に、「婦人よ、御覧なさい。あなたの子です」と言われた。27 それから弟子に言われた。「見なさい。あなたの母です。」そのときから、この弟子はイエスの母を自分の家に引き取った。

◆イエスの死

28 この後、イエスは、すべてのことが今や成し遂げられたのを知り、「渇く」と言われた。こうして、聖書の言葉が実現した。29 そこには、酸いぶどう酒を満たした器が置いてあった。人々は、このぶどう酒をいっぱい含ませた海綿をヒソプに付け、イエスの口もとに差し出した。30 イエスは、このぶどう酒を受けると、「成し遂げられた」と言い、頭を垂れて息を引き取られた。

聖書 新共同訳(C) 日本聖書協会 Japan Bible Society, Tokyo 1987, 1988

ヨハネ福音書では、十字架につけられたイエスを独特な仕方で描きます。苦しみと絶望の叫びをあげる受け身の姿だけでなく、この世の最後の場所である十字架の上、その身が自由にならぬ状況でまでも、イエスは自ら意図したことを主体的に、積極的になされています。「自ら」十字架を背負い(キレネ人シモンの伝承は記されません)、ゴルゴタへ向かいました。

十字架の上、もはや死の宣告がなされ、体は拘束され、いのちは奪われようとしており、なしうることは何もない、いのちの価値も見いだせないと思えるような状況になっても、なおそこで出来事は起こり、イエスはご自身の存在を発揮され、なされたことがありました。

与えられたものと奪われたものが記されます。ピラトはイエスに「罪状書き」(ティトス) [=タイトル: 称号] を与えます。「INRI」と描かれる「ナザレのイエス、ユダヤ人の王」を三つの言語で、十字架を見上げる(向き合う)多様な者たちにわかるようにです。イエスが自称したというユダヤ人たちは言いがかりで主張しましたが、称号は人びとがイエスに与えたもので、ピラトはイエスを十字架刑に処しながらも、イエスの姿に心惹きつけられるものがあり、それが王というタイトルをそのままつけさせたとも言えます。名前、称号は何も持たない者にも、死者にさえ与えることもできます。わたしたちはイエスをなんと呼ぶのか、また互いをどんなタイトルをつけて呼ぶのかを問われているようにも思えます。イエスは「わたしはあなたを友と呼ぶ(15:15)」と弟子たちに言い残されました。

イエスの最後の持ち物となった服と下着は兵士たちに奪われ分けられました(詩編22:19)。詩編22編の苦難の詩人の叫びを、

教会の人びとがイエスの受難、十字架の悲惨さや苦しみの意味を理解する根拠の一つにし、預言が成就したのだと受け止めたことが見られます。

ヨハネ福音書だけに記された十字架上での三つの言葉はイエスが何者で何をなされたのかを伝えています。イエスを思って十字架のもとに集まっていた身近な者たち、母と愛弟子に言葉をかけ、二人のきずなを結び合わせます。弟子はイエスの母を引き取ります。「言は自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった」(1:16)。それが十字架のイエスの姿ですが、イエスはイエスにつながる人びとを結び合わせ受け入れ合わせられました。渇いている人には誰にでも命の水を惜しみなく与え続けた方(4:14, 7:37)が「渇く」とつぶやかれました。人々はぶどう酒を含ませた海綿をヒソプにつけてイエスの口元に差し出します。イエスが最後になされたのは「受け取る」ことでした。そのようにして、人びとの思いと業にお応えになられました。

最後の「成し遂げられた」という言葉は、終わった、万事休す、という語ですが、その反面、成就した、目的を果たした、完成したという意味を持っています。「息を引き取る」は霊を引き渡すとも読める言葉です。ルカ福音書が記す十字架上のイエスの言葉にも通じ合うものがあります。イエスは聖霊を与えると約束されていました(16:7)。十字架のもとにいた者たちに霊が送られたのかどうかは、そのときには人びとは分かりませんでした。復活の主イエスが現れて、息を吹きかけられるまでは。